

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
16101001	南極海の海洋生物生産過程と地球規模環境変動に関する研究	福地 光男 (国立極地研究所・研究教育系・教授)	A
<p>本研究は、海洋生物生産過程と大気中ガス成分との関連性を、南極海季節海氷域における観測を通じて解明するものである。具体的には、特に、地球規模環境変動の重要な要素の一つである硫化ジメチル(DMS)に関して、氷縁域における海洋表層での濃度が最も高いことを見いだすとともに、動物プランクトンの影響として、サルパはほとんど寄与しないこと、カイアシ類の寄与は小さいこと、ナンキョクオキアミは最大の生成量となることを見いだした。また、大気中のメタンスルホン酸(MSA)の時空間変動が海水中 DMS と一致し、さらにそれが植物プランクトンの生物量変動および海氷の張り出し面積の変動に起因することが示唆された。</p> <p>以上のように、極地研究という困難なフィールドで研究を遂行し、興味深い成果が得られたことより、当初掲げられた目的を達成したものと判断される。しかし、南極海の海洋生物生産過程と大気中ガス成分との関係を総合的に評価するという視点でのまとめに至らなかったことは、本研究の未完成な部分であり、今後の研究の進展に期待したい。</p>			